

# 捕食性天敵タバコカスミカメをナスの周年栽培体系で利用する技術「ゴマまわし」の開発

## 背景と課題

ナスを周年栽培する吉野川市鴨島町、阿波市阿波町と同市市場町の生産現場では、ミナミキイロアザミウマが周年発生し問題となっている。また、本虫は数種薬剤に対する感受性が低下していることから、効果的な防除ができにくくなっている。

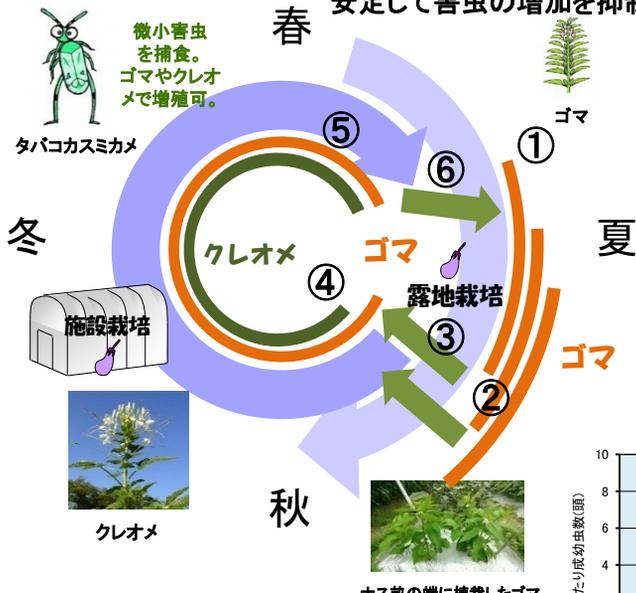
## 研究の目的

本研究は、ナスの周年栽培体系において土着天敵タバコカスミカメの働きを強化するための技術を開発することで、ミナミキイロアザミウマを効果的に防除することを目的とする。

## 研究の内容および成果

### タバコカスミカメの周年利用技術 「ゴマまわし」

- 露地栽培では、1か月ごとに植栽したゴマで殖やしたタバコカスミカメを活用し害虫の被害を抑制します。
- 施設栽培では、ナス定植前後に露地からタバコカスミカメを導入すると、栽培終期まで安定して害虫の増加を抑制します。



#### 露地栽培

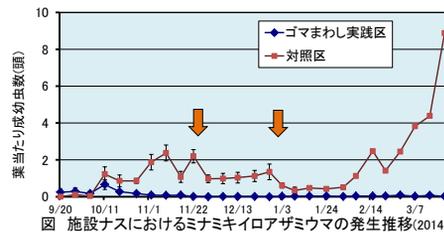
ゴマを畝の端等に植栽し、タバコカスミカメを増殖。

- ① ゴマを播種(1ヶ月毎)。
- ② ゴマの生育終盤は、増殖したタバコカスミカメが自然にナスに移動する。

#### 施設栽培

ナス定植前にゴマを施設内の空きスペースに植栽。タバコカスミカメを放飼。

- ③ 露地ナスの栽培終期にゴマごとタバコカスミカメを施設内に導入(←)。
- ④ クレオメを播種し、冬期間もタバコカスミカメを温存・維持。
- ⑤ 春期、こぼれ種から生育したゴマとクレオメ双方でタバコカスミカメが増殖。
- ⑥ 露地のゴマにタバコカスミカメを植物ごと移動(→)。



ゴマまわし実践区では、露地圃場から導入したタバコカスミカメが温存・維持され、ミナミキイロアザミウマの発生が抑制された。対照区では、春先にアザミウマが急激に増殖したが、実践区は低密度で推移した。

※ 両区とも定植後にスワルスキーカブリダニを放飼。  
図中の矢印は対照区における薬剤散布を示す。

(研究期間：平成24年~27年；農林水産省委託プロジェクト研究)

## 生産者のみなさまへ

本研究で得られた成果により、化学農薬に頼らずに、露地と施設栽培の両方で、ミナミキイロアザミウマの効果的な防除が可能となります。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター  
資源環境研究課 病害虫・鳥獣担当  
電話 088-674-1954